



岷江入楚

繪合

卷十七

特別
~ 12
4604
16



712 45
4604
16



繪公

廿九歳

前所官御入内侍 繪公の巻のいりてきりした
みしりも六条御息所国忌のちり入内侍に
市まきりしそののち御息所へあり三月十日
とみり侍りしそののち御息所へあり三月十日
廿九歳と云ふ事あり侍りし

廿九歳 内大臣

前所官御入内侍 梅壺女御之後号結好中宮

朱雀院送刺櫛呂薰衣香木給事

至上好繪行市

源氏系に繪行市

三月十日梅壺女御と弘徽殿女御繪合事

左女房平内侍のち侍従内侍 中納言侍

右女房平内侍のち中納言侍 左京大夫

朱雀院在繪書梅壺給事



入於御前繪合市 清涼殿西庭為基模天誣云例
 源氏御繪合市 春出東の左方勝市
 源氏御繪合市 春出東の左方勝市
 源氏御繪合市 春出東の左方勝市
 源氏御繪合市 春出東の左方勝市
 山里之御臺市 嵯峨御臺也

繪合 い詞為卷名 和詞繪合といふ事亦同
なすきとんたの御繪合といふあり大竹の御子うらほの

うけを合くありやなすきとんた
何

前舟宮女所とに御殿如御に繪合し奥に号し
後拾遺集の御子正子内親王 和後末葉院繪合の事なり

扇合双紙合根合るといふ事をもて御殿にせり
或清涼繪合二度あり内ことみ外御殿也 玉徳其等合

此繪合源氏廿歳此三月の事
源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳

源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳
源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳

源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳
源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳

源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳
源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳

源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳
源氏廿歳此三月の事也 繪合三月の事也廿九歳

前新宮の御系乃事
秋好也改元位の女御小御女
を六条新宮に遷居せしむ

私わたり秋好にしむるに中宮にいらぬ也

前坊

母六條御息所 養子母ありし所小女と居りしに
秋好中宮 秋好に改元位の女御小御女
を六条新宮に遷居せしむ

為新宮人後入内例

元正天皇御時并高祖王

高祖天皇 太子時女

養老五年為新宮

後光仁天皇納為后

光仁天皇女酒人高祖王宝龜三年為新宮後桓武天皇納之
有寵 桓武天皇女胡原内親王延暦三年為新宮後平城天皇
納之 朱雀院御時徽子女王 宣明朝 天慶元年為新宮
後天曆朝為新宮

中宮小御女にいらぬ

一勅を中宮よりしむる所ありしに

海の御時とありしを中宮にいらぬと

そより秋好にいらぬとありしを中宮にいらぬと

やうほのいせ 海のい

大蔵院よりしむる所あり

海の御時とありしを中宮にいらぬと

の御時とありしを中宮にいらぬと

中宮にいらぬと

二宮院よりしむる所あり

二宮院

秋好にいらぬと

秋好にいらぬと

海の御時とありしを中宮にいらぬと

ありしを中宮にいらぬと

ありしを中宮にいらぬと

おのゝり *Wanderer's Dream*

とらりやあらは

ゆめ *Wanderer's Dream*

えん *Wanderer's Dream*

ほの *Wanderer's Dream*

清浄のうら *Wanderer's Dream*

院の *Wanderer's Dream*

再 *Wanderer's Dream*

あ *Wanderer's Dream*

そ *Wanderer's Dream*

い *Wanderer's Dream*

秋好の *Wanderer's Dream*

ら *Wanderer's Dream*

幼 *Wanderer's Dream*

と *Wanderer's Dream*

再 *Wanderer's Dream*

す *Wanderer's Dream*

名 *Wanderer's Dream*

并 *Wanderer's Dream*

松 *Wanderer's Dream*

内 *Wanderer's Dream*

六 *Wanderer's Dream*

あ *Wanderer's Dream*

け *Wanderer's Dream*

ほ *Wanderer's Dream*

あ *Wanderer's Dream*

ま *Wanderer's Dream*

よろしくお聞きなさい

井六条さまへ

あつたお返しを

上条の末は折り返して

お返しを

お返しを 或は幣を

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

お返しを

りやうのしむるを

おのたまはひく 海

持中納言の法をさるるに 何意見 日本記

ひりやうの物あらうものし くらんせ

あれしらふか くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

長恨亭王昭君の怨をさるるに くらんせ

女君と 世と

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

くらんせ くらんせ くらんせ くらんせ

すい〜〜〜

原書の中へ書きこむこと

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

或は其の如く一日の間に...

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

とわつて服あはれをうけつてはあなごころをいひまわす
明石よの市姫君はあなごころをいひまわす
かゝるももあつちいふ。

ついでにあなごころをいひまわす
わすれぬとあつちいふ。

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

正月に法華会が政道なる二月に法華会が下
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

あなごころをいひまわす
あなごころをいひまわす

しるしをいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
さしつらたけけけの枝つらなる涙しきるはつとて
この葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
た言の葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
りはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて

春中 一番 野花

六百番 歌合 私勸入

左 拾 久入

頭 昭

右

年 廿

ふれいふはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
さしつらたけけけの枝つらなる涙しきるはつとて
この葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
た言の葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
りはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて

ふれいふはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
さしつらたけけけの枝つらなる涙しきるはつとて
この葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
た言の葉をいへばの枝つらなる涙しきるはつとて
りはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて
とくはつとての枝つらなる涙しきるはつとて

たりいほるほろ湯唐韻しそとてしとけりわ
管つらふほしそらうむと号しそとけりわ
もつとくくそとけりわしそとけりわ
今の風評しそとけりわしそとけりわ
しそとけりわしそとけりわしそとけりわ
とてふしそとけりわしそとけりわしそとけりわ
てけりわしそとけりわしそとけりわ

勅塘川院首首

懐旧舞

師付

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

たのむてのげせし

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

いのちのむら

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

かみへのふふふふ

そとけりわ

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

そとけりわしそとけりわ

目まはるあふふ

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

そとけりわしそとけりわ

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

たのむて

そとけりわしそとけりわしそとけりわしそとけりわ

あひらきま

昇 十二才の村を唐使より岐新國より西國まで行のきと何段程を造りてありし事あり人のみし

英國の事あり

なすひま

昇 古の言人古事ありし事

ふれり

ひ むくれむもむくむく玉勿論

急ははねのりもみりし事

ひ 左事の廿志記を郡さし 五曆比書二

本工頭小野道風正四位下 糸澤守孫大守大和葛経男

昇 道風延喜朱雀時代人 兼左衛門右衛門少輔

のりすもいもさる見もさる作もさる

右あうれとりり

昇 右勝

松九方よりけの陰を誰とくつる事

はまのせ物神正三位をありし事

ひ 伊路物神 兼平作 正三位古物神の名 上二西に本位 平よ下ち

昇 伊路物神 正三位古 又たまにまはす

内さるりりりり

正三位の踏りいふ事

平内信

を左方れ人 昇 同

昇 平内信の事ありし事

いふ事ありし事

いふ事ありし事

いふ事ありし事

正三位の物神ありし事

ね正三位の物神ありし事

業平の事ありし事

いふ事ありし事

かゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

かやうれ女市

女のゆゑに身をさすあつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

一まきしりぞの葉をつらして

孫のれ番肝愛とあつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ
番の市(こまきては内この合)

私に後野のあつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ
かゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

縁句の事(市)といふはうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

私に後野のあつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

ば市(あつたうらゝ)かゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝかゝるうらゝ

あつたうらゝ

女をばははの志しひにけりや卯もさるる玉の御
中よりしとけりしむらあ 世の御事

那夜に今もたつれ給も時勝れらるるをいへ
るもあし けりしとさき 桐壺の御事

かろすまありしれしむらあ
君左の慈とありし 娘の心まき

うの直心おしむらあ
跨合し けりしむらあ

かみ弦をいへしむらあ
昔にさあふしむらあ けりしむらあ

いさあふしむらあ
源の御事 けりしむらあ

人よりいさあふしむらあ
中助にいらしむらあ けりしむらあ

りあふしむらあ 深家秘蔵 けりしむらあ

院 けりしむらあ

朱雀 けりしむらあ

年中節 けりしむらあ

私朱雀 けりしむらあ

桐壺帝 擬延長帝 けりしむらあ

桐壺 けりしむらあ

これ朱雀院の御事 けりしむらあ

の御事 けりしむらあ

桐壺 けりしむらあ

母方の御事 けりしむらあ

市三郎の御事 けりしむらあ

の御事 朱雀院 けりしむらあ

ひりーれおしんさうおんさうをいさうのりりく

髻髻れ身をもさうおんさうの幻の細金を造りへり

みまのまきりし時朱髻髻のさうおんさうを思ひく昔乃

かしこしとてりおんさうを思ひく

楊貴妃のりんさうを思ひく官さふさふりく為我附

太と白としい舊高好も思ひく

今太と官さふさふりく

取金釵細金右折其半授侍者曰為我謝太上天皇謹

獻其物尋舊好也 去恨方

ね楊貴妃のりんさうの無期も思ひく

おのまきりし時

昔乃のさうおんさうを思ひく

内のさうおんさうを思ひく

何のまきりし時

てまのさうおんさうを思ひく

昔乃のさうおんさうを思ひく

昔乃のさうおんさうを思ひく

例志めの内は禁裏は赤と朱髻髻は赤と

心のさうおんさうを思ひく

一方と赤と

おのまきりし時

縹唐紙

例のさうおんさうを思ひく

朱髻髻は秋好よりれぬ

おのまきりし時

昔乃のさうおんさうを思ひく

太上天皇のさうおんさうを思ひく

おのまきりし時

ありし世より

例位をさうおんさうを思ひく

ははれ好な

加ふちやう

おのまきりし時

相しつと

朱雀は海にまはりにしつと

るみしつと

階月と水の流るしつと

子弟の祠に流すの流るしつと

院の古跡にまはりにしつと

弘千をれ世に母二女若改大屋より傳

つをまはりにしつと

朱雀は海にまはりにしつと

なりの流るしつと

階月と水の流るしつと

その日と水の流るしつと

三月廿日ありしと

左の壺太弘千は西に向く

女房のしつと

女房のしつと

天徳四年三月廿日

清涼殿の西の庭

才四間為左方女房

縁指五間為右方

西宮記に見しつと

天徳四年内裏敷

才五間

南才四間

清涼殿南

後更而小相

樂の口人

今東清涼殿

西の面

記

見しつと

前

見しつと

昇 づらうてん津波の西)

右志の人のいかにせうれ花うも花の紫ののり
らうまにいかにせうれ花うも花の紫ののり

河花影

天徳寺左方洲濱紫檀祀檀若下祀紫綺地敷
今案左方繪紫檀の若下入く檀若下りく作
所花はまはの又下けくまも一もおれ紫の
錦もおれ紫の祀をまも地敷(これ蒲葎の
天徳のまもり紫檀とくまも作の紫の綺地敷

とまわ

みまふ人ありまふいらくわぬのこみわあられ
お花のこりれしりものなり 天徳寺女四人昇文堂
まもりくけ時珍まもりくまもりくまもりく
かまひまもりまふれくまもりく水干成りまもり物あり
ういまもり檀まもりのまもりくまもりく祀のまもりく
かまわ物(花うまの西うも紫葎前若下り) 右日

右らんのいかにせうれ花うも花の紫ののり
らうまにいかにせうれ花うも花の紫ののり

お花のこりれしりものなり 天徳寺女四人昇文堂
まもりくけ時珍まもりくまもりくまもりく
かまひまもりまふれくまもりく水干成りまもり物あり
ういまもり檀まもりのまもりくまもりく祀のまもりく
かまわ物(花うまの西うも紫葎前若下り) 右日

似濃也

童の装束左方赤も右方赤も 舞の装束赤も
天徳寺左方洲濱紫檀祀檀若下祀紫綺地敷
今案左方繪紫檀の若下入く檀若下りく作
所花はまはの又下けくまもりくまもりく
かまひまもりまふれくまもりく水干成りまもり物あり
ういまもり檀まもりのまもりくまもりく祀のまもりく
かまわ物(花うまの西うも紫葎前若下り) 右日

物合風流市

天徳西官祀之右方合持泗濱二祀新糸と自津湯殿
西邊獻童女一人色若青實正祀銀衣柳枝下居砌

ゆふはぬまのわくしり抄言に多きし事ありしは書きたり
なすしりまのなか合抄はあつて一巻とよはすはるるは
市あよむるまの又合抄の事ありし事ありし事ありし

この事なりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

まきの四はたれはしりし事ありし事ありし事ありし事ありし

或は書きたりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

ともし書きたりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

紙書か合抄なりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

紙書の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

かみ書なりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

昔の繪多き事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

或は右の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

紙書の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

又中納言の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

拾遺の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

不飛古(昇可見)

紙書は山本の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

或はこれの事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

却るれは事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

或は院君の西隣子とありし東 松尾重忠の

ありしとありしと

為雲何事とありしと 松尾重忠の

ありしとありしと 并海の詞

海の詞とありしと

左にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

中納言 松尾重忠の

右にありしとありしと 并海

ありしとありしと

右にありしとありしと 并海

ありしとありしと

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

ありしとありしと

右にありしとありしと 并海

ありしとありしと

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

ありしとありしと

右にありしとありしと 并海

右にありしとありしと 并海

まゝめらうしは日記にありて
ほつとすま日記にありて
松尾人日記記皆真なり是は假名す
かきと綴りありて
あはれなるあはれなる日記ありて

よき日記をゆつりて左の日記あり

天徳寺合左陪負九々

長崎の日記なるほつとありてあり

ほつと無き日記あり

右の日記あり

勸進寺 天徳寺厨子前供済菓子干物次供済酒

左右日記所献画 見西日記

いふ日記あり

是よりほの日記ありて

日記物種一部の内より日記ありて

まゝ日記ありて

是自漢語なりて

院の日記あり

相臺寺の日記あり

日記あり

日記あり

日記あり

顔回不幸の日記あり

河 論語曰有顔回者好学不遷怒不貳過不幸短命

死共今也則亡末因好學者

史記曰顔回一單食一瓢飲不幸短命死仲尼才子也

白氏文集之人數奇詩人薄命

あれをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは
あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

あはれなるをよみてはたしなむるは

園基出於智慧

遊仙窟云

を 暴 東坡し三不能みりてあり

ふきいらるるこころをたのしむるはあはれ
何れれ地とてをうのりり地と

私若者しと昔古しをたれと志強り若し天性の
器用ありと暴なるといふありと暴有別智酒有
觴といふあり

かまういふ
よと暴ういふ

家のこみちあり

暴のこみちあり
好むあり

或ういふのこみちありとたれと志強り若し天性の
器用ありと暴なるといふありと暴有別智酒有
觴といふあり

院の直ありとくるといふありと

院の桐壺とての男女とるこころありと

うのちもとわきとくるといふありと

文とてはけけありとくるといふありと
文とてはけけありとくるといふありと

源少治末比源家源はけけとて
源は文少治末比源家源はけけとて

河
少んれつり
留書寮被納思代樂器也

物合後津遊事

巨塔能公卿殿上人令人至
天徳地下百人相交し由
員津記 兼曆永兼共無百人受兼根合時と合吹
御笛規而

和之書司

且え控申納りし留り行はほし人よまよさるる
昇海に巧くし

或前の祠の海の管絃の道も事々然る事とりきり
とれまけりし御こととらひ申事と控申納りし海
こそおとらひぬ余人もいそとれりし御事とせ
名にあらはれし

味々現今
源理り強るし才一とともとんぬ

おのの命婦
げん器器をひくし強合の人ね左方れ方人とこひ
ふ人の中よりしけれなる御事とともとらひし海りし
を御好み備ふる事とともとらひし御事とともとらひし御事
とともとらひし御事とともとらひし御事とともとらひし御事
はけりし御事とともとらひし御事とともとらひし御事

けしむのいほひのあつていふこと

ちんともいふ中家の志をよ

天徳 大臣 交世 承平 一親 長 大納言 白合 御衣 一重 糸 襦

白草 重 御衣 自余 足 緒

上東 門院 菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

此のいふこと

を 師 交 時 判 官 菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

何のいふこと 中家の志をよ

何 或 奉 出 中 家 志 菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

此のいふこと 中家の志をよ

一本 中家の志をよ

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

菊 合 時 人 賜 御衣 中 見 海 名 記

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the page.

Handwritten text in cursive script, appearing to be a list or series of notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a list of items or names.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a list of items or names.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a list of items or names.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a list of items or names.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.





